日本数値流体力学会臨時総会の報告

Report on Extraordinary General Meeting
of the Japan Society of Computational Fluid Dynamics

久保田　弘敏
東京大学大学院工学系研究科

Hirotoshi Kubota
University of Tokyo

E-mail:kubota@sonic.t.u-tokyo.ac.jp

日本数値流体力学会の通常総会は，毎年，数値流体力学シンポジウム時に開催されていたが，学会の融合に伴い，平成１４年９月２４日に，東京大学化学本館講堂において臨時の総会を開催した．この臨時総会は，当学会の会則第２１条にしたがい，同年８月３１日に開催された評議員会の請求によって，会長が召集したものである．なお，開催に先立ち，議事案件を記載した開催通知を会員各位に送付して周知するとともに，出席あるいは委任状の返送をお願いした．議題は，まず，報告事項として(1)（社）日本流体力学会との融合に関する検討経緯，審議事項として(1)第１０期事業報告および収支決算報告，(2)第１０期事業および収支決算監査報告，(3)名誉会員推挙および承認，(4)日本数値流体力学会の解散についてであった．

開会にあたって，まず河村副会長が司会を務め，当日現在の正会員数は４７０名で，出席者は委任状を含めて２２６名であり，会則に定める総会成立の定足数（正会員の１０分の１）を十分満たしているので，総会は成立していることが報告された．

引き続き，会長から，（社）日本流体力学会との融合に関する検討経緯について，昨年度からの経緯，それまでに開催されてきた融合検討委員会や，会員に対する会員資格移行のアンケート調査等の経緯が説明された．これらの内容は，本誌の融合経緯の報告記事に記載されているとおりである．

次に，会長が議長となって審議事項に移り，矢部事務局長より，第１０期の事業および総会当日時点までの収支決算報告および監査結果が報告され，承認された．ただし，さらに今後も残務の支払い等が残るので，最終的な決算報告および最終的な監査は，数値流体力学シンポジウムの際に行うことで了承された．

引き続き，名誉会員の推挙に移った．まず，河村副会長より，二名の会員，すなわち，お一方は，数値流体力学に関する顕著な研究業績，本会の設立・運営，および CFD Journal の発行等を通じての本会への大きな貢献により大島耕一先生を，もうお一方は，数値流体力学に関する顕著な研究業績，本会の設立・運営，および数値流体力学シンポジウムの創設およ

©日本流体力学会

び運営等を通じての本会への大きな貢献により大宮司久明先生を，名誉会員として推挙したいとの提案があった．また，推挙された場合には，融合後の（社）日本流体力学会に名誉会員として移行していただくことが合意されている旨の説明があり，これらについて，満場一致で承認された．

次に，会長より，再度，融合後の数値流体力学に関する活動や資産の運用等に関する合意事項（本誌掲載の融合経緯の報告記事に記載）が説明され，これらを踏まえて，会則３４条に基づき，平成１４年９月末日をもって日本数値流体力学会を解散し，平成１４年１０月１日より（社）日本流体力学会に融合させることが提案され，採決に移った．採決の結果は，出席者の全員が本提案に賛成であり，委任状もすべて議長に委任するとの内容であった．会則によれば，総会出席者の３分の４の賛成によって本会の解散が承認されることとなっているので，これをもって，日本数値流体力学会を解散して（社）日本流体力学会に融合することが承認された．

最後に，会長より，これによって第１０期の理事会も役目を終えることになるが，実際には本会関連の業務は残るので，それらを責任を持って実施し，数値流体力学シンポジウム時にその結果を報告する所存であること，今回の融合過程にご理解とご支援をいただいた会員各位に感謝すること，また直接運営に参画された理事，評議員の協力にも感謝すること，独立した体制で発行されることとなる CFD Journal に今後もご支援をいただきたいこと，融合後も，数値流体力学が新しい場でより幅広く発展することを期待し確信しているとの挨拶があり，臨時総会を閉会した．

©日本流体力学会